

大谷ハチドリ計画

～津波からよみがえった「ふゆみずたんぼ」と豊作になった米づくり～

気仙沼市立大谷小学校・気仙沼市立大谷中学校

はじめに

地方の現状にもれず、当地(大谷・気仙沼市)においても、人口の減少、少子高齢化、衰退する一次産業など地域の社会や経済が疲弊し、恵まれた自然を有しながら手入れもされずに放置されています。この状況に、松枯れや磯焼けが追い打ちをかけるように発生しました。

この異変から大谷の自然を守ろうと子供たちが「ハチドリ計画」を始めました。その活動は、海(漁業)、山(林業)、田んぼ(農業)と地域の自然や農林水産業全般にわたり、幼稚園から小学校、中学校までの活動となっています。この活動を通じて、子供たちが将来、地域を担う人材として地域再生や活性化に取り組んで欲しいと願っています。



『三陸新報』2004年11月6日



『気仙沼かほく』2008年9月28日

ハチドリ計画とは何か

①地域の環境と暮らしを守る

10年ほど前より当地において、陸では「松枯れ」、そして海では「磯焼け」が発生。その対策が行政や関係機関によって講じられていましたが、異変を止めることができません。こうした状況に、大谷の子供たちがこの異変から地域の自然を守り、復元しようと取り組みを開始しました。困難な問題でも、その解決のために一人一人ができることをしようと「ハチドリ計画」と名付けています。これは南米の先住民に伝わる物語で、山火事に敢然と立ち向かったハチドリに因んだものです。

②地域に根ざした教育

自然環境の悪化は、自然の恵みによって地域の暮らしを支えてきた一次産業の衰退とも重なっています。地域の自然を守り、次の世代に引き継いでいくためには、自然の保護活動だけではなく、地域の農林水産業にも目を向けなければなりません。生まれ育った地域の暮らしや文化を学ぶことで、自らの根を固め、個を確立することのできる人間の育成を図っています。

③ESD(持続可能な社会のための教育)

気仙沼市においては市内の学校すべてがESDを推進しており、大谷の幼小中連携による「ハチドリ計画」はその実践事例となっています。なにより「ハチドリ計画」は、地域の自然や暮らしを守り伝えることで持続可能な地域をめざしており、それがさらには社会全体にも波及するものと考えています。

活動の内容

①松枯れ(山・林業)・小水力発電(川)：中学1年・小学6年(森林組合、森林管理署、県・市林業担当課、東北大農学研究科共生科学研究室と連携)

- ・松枯れの原因や発生の仕組みは何か、松枯れから松を守るためには何をすべきかを学ぶ。
- ・松枯れによって壊滅した松林の復元のために植樹や下草刈りを、地域住民と共同で行う。
- ・森林の生態や現状について学びながら、人間が森林とどう関わるべきかを考える。
- ・林業や木材関連業の現状と、再生のための取り組みについて学ぶ。
- ・小水力発電を通じて、地域にある身近な自然エネルギーの活用を考える。



松の植樹



『日本農業新聞』2011年7月23日

②磯焼け(海・漁業)：中学2年。小学3年、4年はワカメの養殖を体験(漁協、養殖組合、県・市漁業担当課、水産試験場、東北大農学研究科水圏植物生態学研究室と連携)

- ・磯焼けの発生の仕組みを学び、海中林(海藻群落)の復元に取り組む。
- ・ワカメやコンブの生育調査、また養殖と販売体験。
- ・海藻の活用(海藻染め、肥料への利用)。

- ・ウニの生態研究と生育調査。
- ・チョウセンハマグリ(ハマグリ)の汀線調査、砂浜の生態学習。
- ・定置網を通じて大谷の漁業の歴史と現状を学ぶ。
- ・直売センターでの地元水産物の調査。



谷口和也先生(東北大)の出前授業



コンブの生育調査

③ふゆみずたんぼ(農業)：中学3年・小学5年(田植え、稲刈りは幼稚園児、小中学生全員が参加)

(農協、水利組合、県・市農業担当課、農改センター、本吉町産業振興公社、NPO法人田んぼと連携)

- ・ふゆみずたんぼで稲作体験(種播きから脱穀・精米まで、稲作に関わる全ての作業を体験)。
- ・稲の生育調査。



田植え

③学校を支援する地域の体制づくり

このような状況を改善するためには、地域と家庭が本来の役割を取り戻す必要があるのですが、残念ながらそれを望むことはできません。であれば、発想を変え、学校への期待を逆手にとって、地域教育も家庭教育も積極的に学校につないでいく必要があります。ただし、地域と家庭をつなぐ役割は、教員ではなく、地域の住民が学校を支援する「世話人」となっていく。この世話人たちが中核となって地域ぐるみで学校を支援する体制をつくるのです。その体制が整えば、学

校は本来の教育に専念することができることとなります。大谷ハチドリ計画が地域の自然と暮らしをテーマにさまざまな取り組みができるのも、学校を支援するこの体制があつてこそなのです。

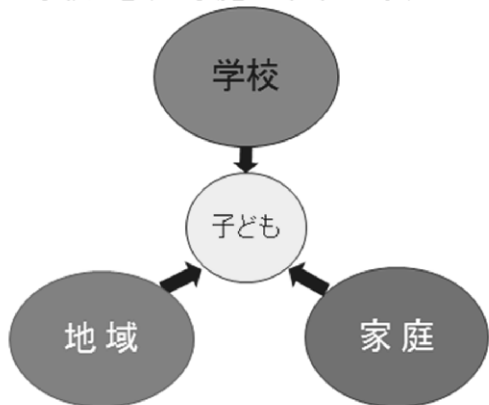
「思い」をつなぐ

前述したように、学校は地域(社会)教育や家庭教育の役割をも担わされています。それだけでなく、学校教育に対してはさまざまな要求や規制も多く、さらには指導要領も変わるなど、現場の教師はその対応に追われて余裕のない状況におかれています。

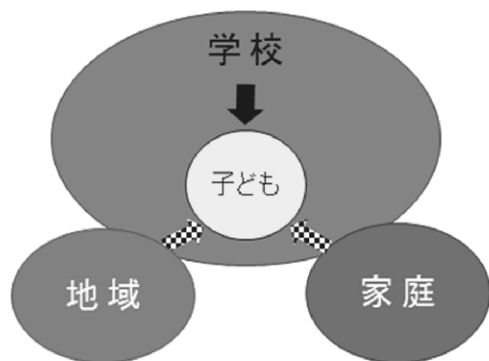
そのような中で、「ハチドリ計画」が7年も継続し、広範な活動を行いながら実績を積み重ねているのは、教員だけではなく、保護者や地域住民に「地域を元気にしたい」「地域の子供は地域で育てたい」という共通の思いが原動力となっているからです。

学校や地域がおかれている状況を踏まえながら、その共通した「思い」をどう結び付け、形にしていけるかを考えることで、何をしなければならないのかが見えてきます。それは、さらに次の取り組みへと進展することになり、また、共通の「思い」を手繰り寄せることで、あらたなネットワーク(縁)がつながり、より多くの人物や団体との連携が可能となっているのです。

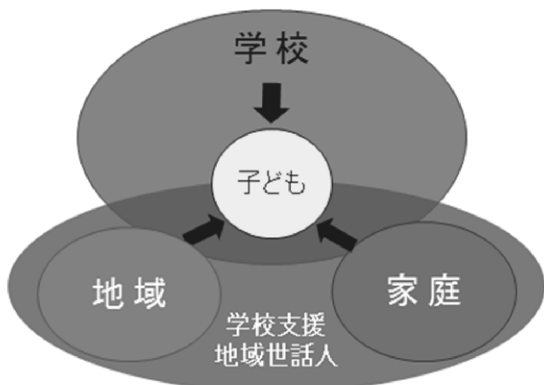
学校・地域・家庭の本来のありかた



いま学校がおかれている状況



地域と家庭をつないで学校を支援



『三陸新報』2009年9月4日



松林の植樹



稲刈り



ワカメの種付け



収穫祭でお結び

大谷幼小中連携・総合学習特別講師

小野寺雅之